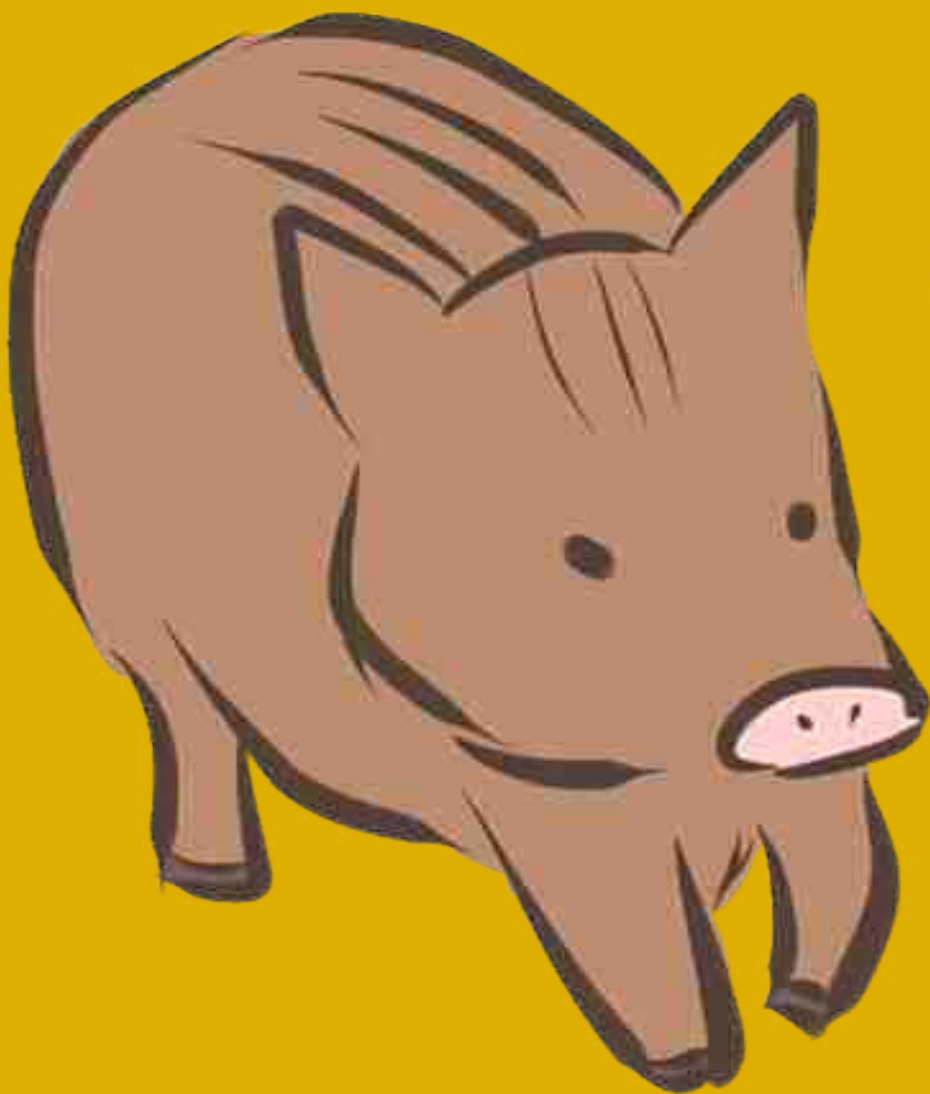


幸せの歌



JA宗谷南

2019NEN
NEW YEAR GOU
~SEASON67~

年頭の挨拶



宗谷南農業協同組合
代表理事組合長
向井地 信之

新年あけましておめでとうございます。
年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられ、心からお慶びを申し上げます。また、日頃から農協の各事業の推進に対しましては、格別なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成30年を振り返りますと、9月6日に発生いたしました、北海道胆振東部地震では、多くの尊い命が失われ、亡くなられた方々に対してご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された地域では、復旧、復興に向けて今なお尽力されているところでありお見舞いを申し上げます。また、この震災によって、北海道では、全道一円が停電となるブラックアウト現象が起こり、北海道経済が数日間停滞する異常事態となった年でもありました。

国際貿易交渉につきましては、9月27日に、日米両国が「日米物品貿易協定」(TAG)の交渉開始の合意が発表され、今後TAG交渉において米国側から過去の経済連携で合意した以上の関税引き下げが求められる事が予想され、その動向を注視して行かなければなりません。また、「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定」(TPP11協定)が米国を除く11カ国

により12月に発効し、日本を含め国内手続きを終えた6カ国の関税が引き下げられ、参加国からは、安い農産物が入り、道内農家が打撃を受けるのは必至で、問題を抱えたままの発効となりました。この様な事を踏まえ政府自民党は、12月に新たな畜産・酪農対策を決定されました。加工原料乳生産者補給金は、8銭値上げの8円31銭、集送乳調整金は6銭値上げの2円49銭となり、合計で14銭値上げの10円80銭で決着し、加工原料乳生産者補給金は、飲用乳に比べて価格が安いバターや脱脂粉乳、生クリームといった加工原料用の生乳生産者に交付する輸送費などの上昇を踏まえ改定され、交付対象数量は340万トン維持する結果となりました。

JAGグループ北海道では、第29回JAA北海道大会を11月に開催し、JAA中央会、連合会の役員、青年組織、女性組織の部員ら約2400人が参加され、農業所得増大や、担い手の育成、サポーターづくりに加え、新たな基本目標「時代に即した協同組合の価値創造」を含む議案を決議し、メインテーマである「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現を目指すこととなりました。

子会社の(株)アグリサポート枝幸の生乳生産部門ファームAYNIの施設が平成30年3月に完成し、20日

には竣工式、落成式を執り行いました。搾乳ロボット6基、別途アブレスト搾乳6頭分を備え、飼養頭数500頭を受入れ可能な施設であります。このメガファームにつきましては、当農協の合併時の生乳生産目標60,000トンを達成する為、又、今後の宗谷南農協の基盤強化、現状乳量の維持、増産、離農農地の補完等を目的とし、地域の雇用も視野に入れたの構想であります。完成前から一部乳牛の導入を開始し、12月までに500頭の初妊牛を導入し、当初の予定を完了いたしました。現在は日量11,000kgを出荷しています。当農協の生乳生産量は、春先からの長雨、天候不順により、粗飼料成分が低下しており、これからの冬期間の生乳生産量が懸念されますが、現在のところ、ファームAYNIの影響が大きいこともあり、上半期から前年比を上回る状況で推移し、12月現在では前年対比102.9%を示しており、30年の出荷乳量は(クミカン年度)55,853.7トン前年対比102.1%となっております。個々の組合員さんにおかれましては、生乳増産をされている方々も多く見受けられますが、離農等の影響もある中、このような生乳生産状況となりました。組合員の営農収支内容につきましては、生乳生産量が減産された組合員につきましては、クミカン整理に育成牛の販売を行った組合

員も見られましたが、良好な精算が見込まれております。

新年度の営農計画樹立におきましても、無事営農計画書の策定を終えました。一部は組合員におかれましては厳しい内容の方もおります。

現在、個体価格の高騰にも、やや陰りを見せ今後の価格に注視して行かなければならないと思えますし、やはり組合員の所得向上には、生乳生産が基本でありますので日頃の乳牛の健康管理を含めた飼養管理を徹底することや、牛舎増設、倉庫、育成舎等の施設投資も将来の安定経営につながることを念頭において生乳生産増加に取り組んでいただきたいと思っております。

公共育成牧場につきましては、前年と同様に受入頭数が急増し飽和状態となり、組合員の初生牛受け入れを制限している所でございます。枝幸町公共育成牧場を建設した趣旨は、育成部門の労働力軽減と枝幸町酪農・肉用牛生産近代化計画を基にした、生乳生産の増産を目的とした施設でありますので組合員の皆様におきましては、趣旨をご理解の上ご利用頂きますようお願いを申し上げます。

また、昨年に引き続き、酪農経営に希望を持ち枝幸町内での2年間の

研修を終え、音標地区に昨年10月に就農し、川上牧場として営農を開始されましたので、地域組合員の皆様には助言、ご指導をお願いするところであります。

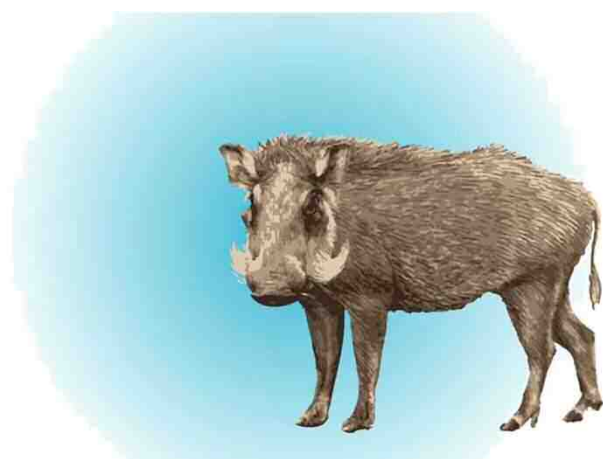
組合事業の年度末収支見込につきましては、「畜産経営の安定に関する法律」に伴い集乳補てん金を受入れた組合は全額を輸送費として支出もしくは、生産者に支払う事となり、については、農協の収益が3,000万円減収となる事から、次年度以降は、生乳販売手数料を0.3%引き上げることにより減収分の半を生産者に協力を求め、残りの減収分は組合の自助努力により補って参りたいと言う考えであります。

懸念事項であります不採算部門については、経営改善が求められている中、試行錯誤しながら解消に努めているところでありますが、Aコープにつきましては、最小限の正職員、臨時職員、パート職員での事業運営を強いられ、ご利用の皆様には行き届かない面も多々あるかと思いますが、今後ともご利用いただきます様お願い申し上げます。

また、メカニックスサービスにおきましても、同様に最低限の人数で営業を維持している状況であります。近年の車両、農機具等につきましては、ハイブリット化や電子制御化されているものも多く、当工場での対応が難しい状況もあります。その影響もあ

り毎年車両の車検台数は減少し、メカニックス取扱高も減少しておりますが、今後も組合員皆様のご利用、ご協力を仰ぎながら整備事業が継続出来るよう事業展開をしてまいりますのでご理解を賜りたくよろしくお願い致します。

最後になりますが、組合員並びにご家族様、関係各位の皆様にとつて事故のない健康で豊穡の1年であり、ますよう衷心よりご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。



宗谷南農業協同組合

代表理事組合長	向井地 信之
理事・総務委員長	下山 勲
理事・業務委員長	小野寺 俊一
理事・生活店舗 整備工場運営特別委員長	小林 政夫
理事・総務副委員長	木村 浩
理事・業務副委員長	吉田 明彦
理事・生活店舗 整備工場運営特別委員長	山崎 幸夫
理事兼参事	寺前 孝義
理事兼金融・共済部長	清野 盛
代表監事	高橋 壮治
監事	佐々木 英世
員外監事	平田 勝一郎
他職員一同	



年頭の挨拶



北海道農業協同組合中央会
会長 飛田 稔章



組合員並びにJA役職員の皆様には、輝かしい平成31年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先は気温も高く、農作物の生育は平年並みで推移しましたが、7月の豪雨や台風21号により、農作物の倒伏や落果、農地・農業用施設の損壊など、全道各地域に甚大な被害が発生しました。さらに9月6日に発生した北海道胆振東部地震により尊い命が失われるとともに、農畜産物や農業施設等に未曾有の被害が発生し、道内全域が停電となる「ブラックアウト」の発生により、組合員の営農やJAグループ北海道・農業関係組織の集出荷、輸送、製造、保管体制に多くの影響が生じてしまいました。

現在、JAグループ北海道を挙げて、1日も早い復旧・復興に向け、全力でその支援対策に取り組んでいるところであります。

作目別の作況をみますと、米は、作況指数が

90の「不良」、小麦は、天候不順の影響により、収量・品質とも平年を下回る結果、てん菜は、収量・糖度とも概ね平年並み、生乳は、胆振東部地震の影響と、今後は飼料作物の品質低下等による生乳生産への影響が懸念されているところとす。

国際貿易交渉については、9月27日、日米両国が「日米物品貿易協定」(TAG)の交渉開始に合意したことが発表されました。

今後、TAG交渉において、米国側から過去の経済連携協定で合意した以上の関税引き下げを求められる懸念があるため、その動向を注視していくとともに、農畜産物を犠牲にしない毅然とした対応を求めてまいります。

さて、昨年11月には、第29回JA北海道大会を開催しました。大会では、前回大会の決議事項を継承し、「農業所得増大」と「担い手確保・育成」の加速に取り組むとともに、「サポーターづくり」の活動拡大として、地域を共に支える准組合員の皆さんのご意見の把握に、これまで以上に取り組むことを決議しました。

また、協同組合の原点を、あらためて見つめ直し、「新たな協同組合」の姿を継続的に討議することも決議しております。今後、組合員の多様な価値観やニーズに対応できる事業運営の展開を検討してまいります。

そして、この3年間の実践期間のうちに、2019年5月には政府が進める「農協改革集中推進期間」の期限、2021年3月には「准組合員利用規制の調査期限」を迎えますが、JAグループ北海道としては、改革は自ら行うものとして、『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現に向けて、JAグループ一丸となって、大会決議事項の

実践を通じた自己改革を進めてまいりたいと考えております。

結びになりますが、今年の干支は己亥(つちのこ)です。亥には、「無病息災」や「安定した状態」で始動を待つ準備期間の意味があるのとこのであります。

今年はこの亥年にあやかり、災害がなく、そして組合員の苦勞が報われる実り多い豊穡の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます、新年にあたってのご挨拶いたします。



新年の挨拶



J A 宗谷南青年部
部長 松田 司



新年あけましておめでとうございます。年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶申し上げます。旧年中は部員並びに組合員様ご家族様、また宗谷南農協を始め各関係機関の皆様方には、日頃の青年部活動に對しまして、ご理解、ご協力を賜り誠に有難うございました。

昨年を振り返りますと、9月に行われた総裁選で安倍総理大臣が今後3年間トップを務めることとなり、また内閣人事により農林水産省大臣に北海道選出の吉川氏が就任されたことで、TPP、EPA、アメリカとのTAG(日米物品貿易協定)の交渉の行方などに力を発揮してもらえものと期待しているところでです。

国内においては、西日本を襲った集中的な豪雨、8月から10月にかけて列島を横断した大型台風、大阪北部震度6弱の地震、収穫時期の長雨による牧草の刈遅れ、そして、胆振東部を襲った震度6強の地震、全道ブラックアウトと災害の多い年となりました。

北海道全域を襲ったブラックアウトでは、枝幸町で2日間の停電が続き酪農業を営む我々にとつて、日頃当たり前のように使っていた電気が使えなくなる、ここまでの痛手になるものと改めて考えさせられました。その中で、全道・全国各地の青年部盟友から多くの励まし・支援の声が届き、改めて青年部としてのネットワークの大きさを、改めて気付か

れました。

また、国内の酪農情勢では、個体価格の高騰や高水準の乳価が続き、農家の所得向上に繋がる傾向ですが、個体価格に關しましては、価格が下落していることから、やはり生乳生産に力を入れていかなくてはと感じております。

青年部の活動としましては、7月に風烈布小学校を会場にバター作りが行われました。風烈布子ども育成会より依頼があり、風烈布地区の子供たちと、「みるきいちゃん」も交わり、暑い中熱心にペットボトルを振り徐々に固まるバターに喜びながら作りました。

12月の全道大会では、1分間CM「食育を子供達と共に」を上映し、農村ホームステイ事例発表を報告しました。CM作成や事例発表文書・スライドを繁忙期と重なりながらも、一から構想し合間を見て準備しましたが、1分間CMは惜しくも上位10作品には届かず、悔しい結果となりました。

他には、よくばりフェスタ、流水フェスタ、サマーフェスタ等消費者との交流も「みるきいちゃん」のおかげで大変盛り上がり、今後も町のイベントに積極的に参加し、牛乳の無料配布等による牛乳消費拡大活動を続けていきたいと思ひます。

また、食育活動においては、子供たちに牛乳のこともっと知って頂き、好きになつてもらうため、紙芝居の読み聞かせを今後も継続して行きたいと思ひます。

最後になりますが、旧年中はご迷惑や至らない点が多々ございましたが、本年は青年部の更なる発展を目指し、部員一同邁進してまいりますので、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどを宜しくお願ひ申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



宗谷南農協青年部

監事	監事	理事	理事	副部長	副部長	部長
井上	高山	関口	大塚	真壁	松田	
英之	慶大	知紀	真也	哲悟		司

新年の挨拶



J A 宗谷南女性部
部長 奥出 さい

平成最後の年頭にあたり一言お祝い申し上げます。新年明けましておめでとうございます。

昨年の北海道は相次ぐ発生した台風や胆振東部を襲った地震による被害が相次ぎ、多くの死傷者や多大な被害に見舞われました。ここ枝幸でも全道的な停電により搾乳が出来ない状態や、せつかく搾った生乳を処分しなければならぬという最悪の事態にあわれた方も多かったと思います。初夏からの悪天候による粗飼料確保の遅れに追い打ちをかける様な自然災害でしたが、なんとか皆さんの協力により乗り越えられたのかと思っております。

昨年はJA全国女性協議会の3ヶ年計画「ふみだす勇氣、学ぼう・伝えよう地域と共に」の最終年度でもありました。また平成27年に決議されましたJA北海道大会において「北海道550万人と共に創る力強い農業、豊かな魅力ある農村」の実現に向けては、少しずつではありますが前進しているのではないかと思っております。

女性部の活動では、昨年5月に部員14名で1泊2日の視察研修を行いました。北広島市にあるホクレンくるるの杜、千歳市にある北海道キッコーマン㈱を訪ねました。2日間でしたが、日々の疲れを忘れることができ、部員達の交流が取れ、とても有意

義な視察研修と考える内容でした。10月には生活工夫展を行い、部員達の心のこもった作品が多数出展され、家の光大会への展示品を選ぶのに苦労致しました。11月には、JA北海道女性大会が行われ部員4名が出席し、家の光記事活用体験発表や全体懇親会、研修会を行い、全道各地の女性部の方々と親睦を図り、今後の組織活動の活性化に繋がる大会となりました。

道女性協の活動の中で岡山・香川県視察研修旅行が11月27日～30日の日程で企画され、私が宗谷地区の代表として参加させて頂きました。11月末と言うのに道端には、柿やみかんが実り、畑には青々と葉を茂らせて、人参・大根・ブロッコリー等が育っていました。日没も1時間程遅く、南北の長さを肌で感じてきました。

Aコープの酢を一年中製造販売している会社や、6次化に力を入れている酪農家さん、香川県女性部との交流など3泊4日の研修もあつという間に過ぎ、全道各地域の方々とも親しくさせて頂いた、実りある研修でした。

平成も4月30日をもって終わり5月1日からは新しい年号が始まります。どうぞ本年もJA始め関係機関の皆様には女性部に対し、より一層のご指導ご協力を頂きますようお願い申し上げます。部員の皆様、組合員の皆様には御身を大切にお過ごし下さる事を御祈念申し上げます、新年の挨拶と致します。



宗谷南農協女性部

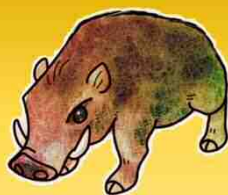
部長	奥出 さい
副部長	戸澤 宏美
副部長	菊池 静子
理事	生方 和歌子
理事	今井 美奈子
監事	開地 かほる
監事	山崎 由香里



宗谷南
酪農ヘルパー利用組合

組合長	石田幸也
副組合長	澤田和人
理事	小林政夫
理事	高橋博則
理事	松井康有
理事	桜庭明彦
理事	廣川拓也
代表監事	山岸也須彦
監事	安井一晃

他職員一同



宗谷南乳牛検定組合

組合長	下山勲
副組合長	今尚春
理事	関口真也
理事	山岸也須彦
理事	向井地善史
理事	井上英之
代表監事	藤山祐介
監事	高橋慶大



宗谷南
乳質改善協議会

会長	向井地信之
副会長	真壁哲也
副会長	生方順亮
監事	中野隆
監事	大塚悟



謹賀新年

昨年中は大変お世話になりました。衷心よりお礼申し上げます。
今年も自己研鑽を重ねて知識と技術の向上を図ってまいります。
何とぞ、昨年と変わらぬご利用・ご活用を賜ります様お願い申し上げます。
皆様におかれましても、健康で稔り多い年であります様ご祈念申し上げます。

文

